

女性と子どもへの性暴力に関する提言 (HuMAメーリングリストより) :

発災から時間がたってくると、女性に対する性暴力が発生し始めるといわれています。神戸の震災の時もそうでした。避難生活での全くプライバシーの確保されない環境等が問題であると思われませんが、それ以上に問題は被害者に対する対応が出来なくなってしまうことです。平時には医療機関や警察など、十分に対応できる体制を作っている有事は出来なくなります。

実際に神戸の震災の時は、被害者が救援を求めてきても、医療現場は重症の傷病者が多く、性犯罪被害者には特に生命に危険が及ぶものではないとか、自分がしっかりしていないからだとか、自分が油断したのが悪い、等と取り合ってもらえなかったという報告があります。特に若い被害者に、女性職員が上記のようなことを言ったら、被害者は全く救われなんでしょう。相談したくても身近な人が被災して近くにいないことも十分に考えられます。

そこで、例えば性暴力被害者に対する専門ブースを作って、そこに医療者とメンタルケアの専門職員をおいて、というような余裕は全くないことは分かりますが、万が一そのような相談が持ちかけられた時には、特に女性の隊員、関係職員のみなさんには、上記のような対応をすることがないように、忙しいなかでも、少しでもお話を聞いてあげられるような心の準備をお願いします。また、できれば緊急避妊用のプリベンなどの準備が出来るのであれば、その準備も必要になってくるかと思えます。

各避難施設においてアドボカシーとして、注意喚起の張り紙などを行うことでしょうか（これが必ずしもよいことではないという意見もありますが）。即座には、以下のようなことが考えられます

☆子ども、女性は一人では行動しない。特に夜間、トイレなどについては、必ず同行者を伴うように。

☆救援物資は生活に最低限の物資からの支給になるので、子どもはお菓子などに飢えてきていることから、「お菓子をあげるから一緒においで」などというような誘いに点いて嚴重な注意が必要であることを、理解させる

☆残念なことです、災害時には平時より性暴力が増えるのだということを周知

☆これも難しいことです、平時より、相談窓口を増やし、動員数も増やしておく

☆女性にはかえって嫌がられることもあります、トイレ周辺は特に明るくしておく

☆男性のストレス解消のための相談窓口などの開設も必要

子どもと女性の保護について、「災害と女性」情報ネットワークをご参照ください。<http://homepage2.nifty.com/bousai/>

女性の性暴力について、大分県が「女性の視点からの防災対策のススメ」というパンフレットを作成しています。<http://www.againstgfb.com/05-0d.pdf>

新潟中越地震では、災害時に初めて政府は内閣府男女共同参画局の職員を現地に派遣しました。この際に避難所見回り職員を男女のローテーションにし、女性が女性職員に問題を話しやすくするといった工夫もありました。しかし、女性の視点は残念ながら緊急時ということで見逃されることが多いのが現状です。性暴力、セクシャルハラスメントに関しても、みんなががんばっているときに、そんな問題をいうなと言われたといった事例もあります。新潟中越地震

の後に女性グループが集まり、検証という意味も込めて、「あんしんの種」という冊子を出していますが、その中に女性たちの考えた理想的な避難所（添付）があります。災害後は男女それぞれに違ったニーズがあります。

現地に行かれる皆様、どうぞそういった声を聞いていただけますようお願いいたします。